

中齋塾 東京フォーラム
平成 25 年度 第 5 回講話

平成 25 年 5 月 11 日
東京フォーラム
於 湯島聖堂

午前中は雨がぽつぽつと降っていましたが、午後からどしゃ降りだそうですね。今日は寒い、明日は暑いということですが、なんという天気でしょう。でも服は変えられないので致しかたないです。家内に言わせると 3 日間同じ服を着ると加齢臭が出てきてよくないと言いますが、年配の方の集まりに出てお話をする時には加齢臭は気になりません。でもこの会は良い香りを感じずる方ばかりですね。先週、嵐山から荒井先生の他三名の方が私のところに見えられて色々とお話を致しました。今回お話を戴いた中で納得したのは、荒井先生曰く「良い顔が出来るのは、御本人の努力だけではありません。御両親の積み重ねた善い行い、またその上の祖父母の善い行いが積み重なってきて良い顔ができる。決して一代だけでは出来ません」というお話でした。みなさん鏡を見るでしょう、御両親祖父母の努力を考えると、良い味わい深い顔になります。たまには鏡をじっくり見て御先祖を思い出されたら如何でしょう。

『しあわせの遺伝子』井上和雄著 育鵬社

一なにごとの おわしますかは しらねども かたじけなさに 涙こぼるる一
良いことが、たくさん書いてあります。

恒例の質問

- ・今朝起きてから今までの時間、嘘をつかなかった。
- ・今朝ありがとうと言い、ありがとうと言われた方。

私はこの頃、人様から「有難う」と言われると、「有難う」をキャッチしたと思うことにしています。この間も、四国にある従業員 56 名の靴を販売している会社にお伺いしました。今もその靴を履いているのですが、この靴を世話して戴いて「有難うレター」が一年間で二万通あるそうです。靴より、売り方・アフターが非常に嬉しいと靴一つに対して二万通の「有難うレター」がくるのが不思議でした。「有難う」と言われたものを自分の心でキャッチをしようと思います。「有難う」と言う会話をするとより心に沁みます。それが重なりあうとよい顔に繋がると思います。

・今日良い日だったなあと思える人。

まだ過去形ではありません。過去形をイメージできるかどうか。そのイメージづくりが難しい。

・明日を過去形で考える。今、ごく当たり前に行っているのですが、時々ふと明日以降を過去形でイメージできる方。

それができると良い人生だと思います。良い顔になる。鏡をご覧になって下さい。

・朝起きて健康法を実践された方。

安岡先生の本に「人生の五計」があります。一日の中で肝臓に充電する時間帯、腎臓に充電する時間帯、胆のうに充電する時間帯と色々あります。また一日の過ごし方の中で腎臓によくない時間もあります。

私は腎臓が若干危険だという数字が出ており、お医者さんから「たんぱく質を取らないで下さい」と言われました。ちょっと調べたら肉は駄目、魚は駄目、納豆は駄目、豆腐は駄目と言われて半月ぐらい経っていますが、これも実験だと思ってやっています。そうしますと、たんぱく質を取らないだけでも体重は落ちますね。何故たんぱく質を取ってはいけないかというと、たんぱく質をとってそれを燃やしてエネルギーに変えて燃えカスが残る。その残ったものがクレアチニンという数字で出てくる。たんぱく質を取り過ぎるとその様なものがでる。腎臓を休めなさいと理解しました。腎臓を休める為には、夕方の 5 時から 7 時の間は食べてはいけないそうです、腎臓を保護する時間帯です。食べても少なめにということです。私は 6・6・12 の法則を実行していますが、それを少し変えなければいけないかなと思っています。ダイエットを実行した時に 1 カ月 1 キロずつ減らしていくのに実行して定着しました。今度は腎臓の話ですので、それらを保護するのにひとつのヒントが出てきたので、まずは実行して実験してから紹介します。

マグガバンレポート

「日本食は世界で理想的な健康食である」というイメージを植え付けた元です。1977 年頃アメリカ国民の死亡率一位は心臓病、二位は癌。その当時のアメリカの医療費が 25 兆円であった頃の話です。このままだとアメリカの財政が壊れる、医療費で潰されるという懸念があり、医療費を減らすためには、どうしたらよいか。今まで肉食中心の食事を切り替えるきっかけとなるレポートです。特に肉食中心の世界に広がりました。私は昔、外国の寿司屋に入ったら中にいた人は中国人で、お寿司は日本のお寿司と似ても似つかないものが出てきました。味噌汁も同じです。あちこちに行って日本食を食べてきましたが、まったく日本食ではありませんでした。その元になったものがマグガバンレポートで、今は日本に還流してきているなど感じています。日本の食事が世界の理想になっています。内容としては、小魚が良い、海藻が良い、精白しない穀類が良いというイメージが世界中に広がっています。

素読論語

能や狂言の時の所作は重心がかなり低いですね。素読も同じで重心がどっしりしていると良いです。論語の中に能の歩き方が書いてあります。

声を出すと自然に力が生まれます。言霊ですね。目線が肝心で、目線は上です。目線を上にして声を口に出すと強くなります。目線が下だとパワーが出ません。目標を高く持つと良いという事です。

最近シムクッスに柔道一筋の先生が来ました。道場でその先生に座ったまま丸くなって貰います。上に人をたくさん乗せたまま立ち上がるようお願いしました。「弱いと言いながら立ち上がって下さい」と言ったら立ち上がれませんでした。今度は「強いと言って起き上って下さい」と言いましたら、「強い…」と一回言ったら、上に乗っている人を持ちあげて立ち上がりました。これは力のある人より、無い人の方がより効果ははっきりします。女性は非力だと言いますが、声の出し方や読み方で変わってくるのではないかと思います。

素読論語解説 先進第十一（後半）

【二五】求 爾は如何と。対えて曰く、方六七十、如しくは五六十、求や之を為めば、三年に及ぶ比おい、民を足らしむべし。其の礼樂の如きは、以て君子を俟たんと。赤、爾は如何と。対えて曰く、之を能くすと曰うには非ず、願わくは焉を学ばん。宋廟の事、如しくは会同に、端章甫して、願わくは少相と為らんと。点、爾は如何と。瑟を鼓すること希なり。鏗爾として瑟を舍きて作ち、対えて曰く、三子者の撰に異なりと。子曰く、何ぞ傷まんや。亦各其の志を言うなりと。曰く、莫春には、春服既に成り、冠者五六人、童子六七人、沂に浴し、舞雩に風し、詠じて帰らんと。夫子喟然として歎じて曰く、吾は点に与せんと。三子者出づ。曾皙曰く、夫の三子者の言、如何と。子曰く、亦各其の志を言えるのみと。曰く、夫子何ぞ由を晒うやと。曰く、国を為むるには礼を以てす。其の言譲らず。是の故に之を晒うと。唯求は則ち邦に非ずやと。安んぞ方六七十、如しくは五六十にして、邦に非ざる者を見んと。唯赤は則ち邦に非ずやと。宋廟会同、諸侯に非ずして何ぞ。赤や之が小為らば、孰か能く之が大為らんと。

求はどうだと聞かれ、冉有は「小さな国でしたら三年ぐらいで民の衣食住を安定させられるが、文化的なことは不得意なので、文化面は君子にお任せします」赤はどうだと聞かれ、公西華は「自信はありませんが祖先のおまつりや（会は二つの国が話をしている。章甫は礼式の冠。厳かな格好をしていると想像すると良いでしょう）国際会議のようなところでお手伝いをしたい」と謙遜をしている。点はどうだと聞かれ、そしたら曾皙は琴を止めて立ち上がり、孔子に「三人の方達とは違いますが、立派な方達と比べて私は言えません」と答えた。孔子は「あまりそんなことを気にするな。それぞれが好き勝手言いたいことを言っているのだ」と。そうすると曾皙はリラックスして「私は春が終わった良い雰囲気

氣になってきた頃、新調した春用の服を着て、少年を五人～六人連れて歩き湯浴みをし、若者や小さい子に囲まれながらぶらりぶらりと気持ちの良い歌を歌って帰ってきたいと思います」孔子が喟然とした感じで「お前は良いことを言うね。私は七十代であるが、お前は四十代であるにもかかわらず、そういう様な境地になるものだな、私はお前の言うことに賛成だ」と。その後三人は退出して曾皙は後に残りました。「質問しようと思ったので残りました。あの三人の方々が言ったことに対して先生はどういう風なお考えですか」と尋ねました。孔子は「それぞれが言いたいことを言っただけに過ぎない」先生は、「なぜ子路のことをフツと笑ったのですか」と聞いたら、「あれは耳順にも関わらず、謙遜が無く思うことを言い過ぎる。少しは譲る方が良い」。私も耳順でして、こちら辺は耳が痛いですね。自分自身に当てはまるような言葉があれば私も取り入れますので、皆さんもこれだと思うものは取り入れて下さい。

公西華は謙遜しているが、「五～六十里の国は小さな国だけれど、国は国だ。大勢の国々から従者が集まって会合を持っている、その中で二つの国の君主同士が話し合いをしているというような状況を取り仕切れるのは赤しかいない。少相であるといったらば、誰が大きな式典を纏めることが出来るのか、あまり謙遜も程がある」という様なことを少し言いました。この状況が暖かい良い雰囲気になって、孔子とお弟子さん達が仲良くお喋りをし、ハッと思うような科白が入っている。こちら辺は良い部分だなと感じます。

嵐山の郷学研修所の荒井先生と話していましたら、白川静先生の話になりました。安保闘争の頃、御存じの通り安保反対で安田講堂にバリケードを組んだのですが、荒井先生曰く、白川先生の部屋は誰もバリケードを築かなかったそうです。学生がバリケードを築いている時に、白川先生は講義をするために堂々と通っていたら学生達はよけたそうです。待っていたのは一人だけだったらしいですけどね。でもその一人に対して講義をしました。「学生も本物と偽物を見分けるものですね」と話していました。似たような話で、湯島聖堂の前理事長・宇野精一先生もそうでした。宇野先生は小柄でひょこひょここと歩きますが、そのバリケードのある中でも宇野精一先生はひょこひょここと歩いて行くと、学生は避けて先生は自分の教室に向って行きました。当時バリケードを築いていた学生は心が荒れていたから、自分の尊敬する先生や本物に対しては敬ったけれど、尊敬の念をもっていない先生に対しては罵詈雑言を浴びせたという話です。

時事評論

今日のテーマで「なにごとも おわしますかは しらねども かたじけなさに 涙こぼるる」

日本人の本質、このような畏敬の念、恐れ敬う気持ち。来世に対して持つのは日本人特有だなという気がします。「足るを知る」という考え方は、誰に教わったわけではないが、

自然とそのような気持ちになってきます。

日本の場合、四季折々の季節、地形、風土、色々な自然的な要素が絡まりあって、今の日本人の資質ができあがっていると思うのですが、自分自身の本質はどこにあるかと考えてみる。日本の本質はどういう文化かなと考えてみる。皆様も、そういう習慣を持たれると良いだろうと考えています。私は自分で考えてみて、大自然の中に行きますとホッとします。たくさん木があるとホッとするのは、どなたも同じだとは思いますが。ただ時々もっと欲しい、足りないな、言葉ももっと褒めてと今まではしていましたが、最近は止めようという気になりました。もっともっと足りないという気持ちになったのは、お金というものがあつたからでしょう。しかし今は褒めて貰った分だけで充分だという気になってきました。耳順になってきたのかなという気がします。

税金の流れ

本質・大局・歴史は、前から三つの視点で見て下さいと申し上げていますが、今の三つの視点は、(前は民主党でした) 自民党・自公民政権の打つ手をよく見て下さい。あとは同じです。

5月10日の朝日新聞で気になったのは、共通番号制を今度の国会で通すという記事でした。なぜ共通番号制を作るのか。昨年の12月18日の朝日新聞は、2年間通して国民年金の未納が最高26%、455万1千人が2011年3月付現在で未納している。今年の1月28日の日経新聞は、生活保護3年間で740億円削減をしたいという記事がありました。新聞を見る時、気になったら記事は取っておいて半年ぐらい追っかけて見ると繋がります。パラパラと単体で見ると繋がりませんが、少なくとも半年間、1年間同じテーマで見ると、おやと思う様なことが分かります。これが今回の共通番号制に繋がっています。何のことはない、国民から税金を巻き上げる為の方法を取るということです。

富裕税を検討したという記事がチラと小さく出ていました。富裕税や財産税は、消費税だけでは間に合わないから、財産税をとるべく検討を始めていますというものです。それが小さく出ていたので、これから徐々に世間へ出てくるでしょう。生活保護の方は金額を削り、消費税はどんどん上げます。消費税だって4・5・6月の景気が好景気であるという雰囲気を作りだそうとしています。実際に給料はあがっていませんし、従業員削減というのもやっています。それはなかなか新聞で出さない。景気が良くなるというものを前面に出していますが、それは消費税対策です。参議院までということです。これから出てくるものは国民からいかにして税金をたくさん取るかという流れです。それがどんどん加速されています。新聞記事に小さくあちこち載っているものが多いです。おまけに昨日の新聞で金利が2カ月上昇とありました。これは国債の動向から眺めた場合、金利を下げるのではないのか。前に申し上げた日銀総裁の黒田さんは金利が下がると言っています。けれども同じ新聞の違うページで中小企業支援対策を打っているけれども、誰も相談に来ませんというのが載っています。これでひょっと思いたったのが、新聞に載っているもので3・

11 に対して助成金があちこちに出たけれども隠れたものは含めない。例えば木材支援で、木材を切りだすのに助成金が回っている。復興に対する良質な木材を安定供給する為という理由はもっともらしいのですが、とんでもない場所の木を切りだして、そちらにお金を使います。一見もっともらしい話ですが、被災地に直接的ではない。そのような中で今の学生は、なかなか就職できない時代だから、就職支援の助成金を政府が用意をしました。学生が就職できて、日本の国の為になるような人材を育てるために就職支援金を出しました。もっともらしいのですが、現実はどうか。ある大学の就職担当の部長と話をしましたら、「今の学生は卒業しても簡単に就職をしなくても良いという気持ちになっています。先延ばしです」。私はどうしてかと思いきや部長は「卒業してすぐ就職できなければ、国が面倒を見てあげるのです。国がお金をくれますから、そのお金が出る間は就職なんかしなくてもよいという考えです」政府の考えていることとは正反対の動きになっています。

3・11 が起こった後、私は避難先をまわってみました。当社の採用担当者も色々まわりましたが、採用者はなかなか決まらない。それは何故か、最後は国がお金をくれるからです。採用担当者が募集をかけても来る人達は、「就職活動をしている」という実績を作りたいが為に面接に来ています。それがそろそろ打ち切られるとなれば、今度は生活保護を申請となります。避難先は 1 年近く国からお金がでるのが当たり前で常識になっている。新聞には、そのような常識は書かないで「自分の能力を活かした仕事を探しているから mismatch が多い」という新聞記事が多く載っています。現地に行ってみると働かなくても金が貰えるのだから、「金が貰える間は勤めません」というようなことが普通でした。共産党も応援をしていますから、生活保護の申請を断ったら総務省からお達しがきます。そういう風にして税金を垂れ流す代わりに共通番号制度を敷いて、お金を持っている人達から税金を巻き上げようということです。これは学者、歴史的な人、山田方谷や木内信胤先生も同じく、「国が疲弊をしてきたら税金を減らす。それが国家財政の王道である」と色々な先生方は言っています。税金を取ろうというのは孔子の時代から国を潰す道だと連綿として言い続けていますが、目先しか見えない官僚、政治家は国を滅亡させる方向に向かっていきます。民主党はお先棒を担いだ政権で、今の自公政権も同様な方向で国を滅ぼそうと向って動いています。役回りとして、そういう事になっているから日本の国はどんどん沈没していく。円安で、良い影響が出る企業もあれば悪い企業が出る企業もあるはずですが、マスコミは「歓迎だ」という論調で進めています、「本当に良いのか」という論調は少ないです。これはおかしいと思っています。

時事評論で見る時には、今申しましたようなことを半年から 1 年間同じテーマで見続けると色々なものが見えてきます。同じテーマのものも、別のテーマのものもハッと気がついたら繋がっている。商売をしていて、品物を仕入れるのは直前が良いか、3 ヶ月後を見て仕入れるか、はたまた半年後をみて仕入れるのが良いのか、またはどこの国の物を仕入れるのが良いのか、というのが見えてきます。

今日たまたま見た新聞で気になったのは参議院です。民主党員がまた一名離党しました。そうすると自民党の会派は 84 名ですし、民主党が減ったから、同じ勢力になりましたね。これから必死になって自公民は裏から手をまわして離党するように手を打っていくと思います。裏から手をまわして減らしている。自分達は増やそうとしているという動きをしていますから、アベノミクスが好景氣を演出している間に憲法改正という方向も着々と手を打っています。女性の票を取り入れたいから、待機問題等といった問題を取り扱って目先は良さそうに見えます。中長期的にみると怖いなという動きが進んできていると感じています。

時間が参りましたので以上で終了致します。